

## [災害統計]

# 平成22年における車両系建設機械等による死亡災害の発生状況

### ○平成22年における車両系建設機械等による死亡災害の発生状況

平成22年に発生した車両系建設機械及び高所作業車等による労働災害の死亡者数（第1表）は、73人であり、平成21年より3名（-4.0%）減少した。

第1表は、業種別、機械の種類別に分類したものであるが、機械の種類別（その他の建設機械を除く）では、掘削用機械によるものが30人（41.1%）で最も多く、次いで、整地・運搬・積み込み用機械16人（21.9%）の順になっており、2機種で全体の63.0%を占めている。また、業種別においては、建設業（土木工事業、建築工事業、その他の建設業）が全体の

72.6%を占めている。

第2表は、事故の型別・機械の種類別に分類したものであるが、事故の型では、「はさまれ・巻き込まれ」が33人（45.2%）、「墜落・転落」が19人（26.0%）、「激突され」が11人（15.1%）と多く、この3つの事故の型で全体の86.3%を占めている。

このように、車両系建設機械等による災害の傾向として、機械の種類別では、掘削用機械による災害が、業種別では建設業が共に圧倒的に多い。また、災害の型別でみると、建設機械にはさまれ・巻き込まれる災害、墜落・転落する災害、激突される災害が多くなっている。

第1表 車両系建設機械等による機械の種類別・業種別死亡災害発生状況（平成22年）

建設機械等の種類	製造業	土木工事業	建築工事業	その他の建設業	その他の業種	合計
整地・運搬・積み込み用機械	1	7	1	1	6	16
掘削用機械	1	17	5		7	30
基礎工専用機械						0
締固め用機械		7			2	9
解体用機械		1				1
高所作業車			1	3	1	5
その他の建設用機械	2	5	1		4	12
合計	4	37	8	4	20	73

第2表 車両系建設機械等による機械の種類別・事故の型別死亡災害発生状況（平成22年）

建設機械等の種類	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	激突され	はさまれ・巻き込まれ	交通事故	その他	合計
整地・運搬・積み込み用機械	5	1		1	3	5		1	16
掘削用機械	9	3			6	11		1	30
基礎工専用機械									0
締固め用機械	4				2	3			9
解体用機械		1							1
高所作業車	1					3	1		5
その他の建設用機械		1				11			12
合計	19	6	0	1	11	33	1	2	73

（情報提供 厚生労働省）